

峰ヶ丘会報

題字 和賀井睦夫 会長

第152号 2014. 10. 1



旧書庫 2014. 6. 25

CONTENTS

第3回ホームカミングデー開催のお知らせ	2
会長挨拶	3
特集 附属農場統合30周年記念	3
退職の挨拶	5
新任教員挨拶	6
追悼	7
支部総会	9
クラス会	12
平成26年度峰ヶ丘同窓会理事会報告	19
支部長一覧	20
お悔やみ	21
決算書・予算書	22
お祝い・寄贈図書	23
“こんなことをしてます” (森林)	24



大11～昭18
高等農林学校



昭19～23
農林専門学校



昭24～36
新制宇大



昭37～
宇大校章

MINEGAOKA NEWSLETTER No.152
The Alumni Association
Faculty of Agriculture
Utsunomiya University
Utsunomiya 321-8505 Japan
E-mail:minegaok@cc.utsunomiya-u.ac.jp

卒業生・教職員・在学生、そのご家族、地域の皆様へ

第3回宇都宮大学 ホームカミングデー



2014年 11月22日(土)

～ 母校で、かけがえのない時間を過ごしていただきたい
「おかえりなさい」の気持ちで、お待ちしております ～

● 農学部のプログラム ●

- ◆ 受付 10:00～10:30 農学部3101教室
- ◆ 大学祭・パネル展示・研究室公開 10:00～16:00 各研究室
(実施する研究室は、後日農学部HPでお知らせします)
- ◆ 学長・学部長挨拶 10:30～10:40 農学部3101教室
- ◆ 座談会 10:40～12:00 農学部3101教室
テーマ:「農学部の学び今昔」を語る
登壇者: 農学部名誉教授(岩下嘉光先生、玉城昌幸先生、竹永博先生ほか) 農学部現役教員
- ◆ ウェルカムパーティー(会費1,000円) 12:00～14:00 農学部大会議室
農学部3101教室

● 事前申し込みについて ●

会場準備の都合上、事前申し込みをお願いいたします。申し込みについては、

- ・ 宇都宮大学ホームページ (<http://www.utsunomiya-u.ac.jp/>)
- ・ FAX (FAX番号: 028-649-5401)
- ・ 郵便ハガキ (宛先は下記事務局住所)
- ・ Eメール (nousomu@miya.jm.utsunomiya-u.ac.jp)

のいずれかでお申込みください。

FAX、郵便ハガキ、Eメールに関しましては、下記①～⑤についてご記入のうえ
10月24日(金)までにお申込みください。

- ① 参加者氏名(同伴者がいる場合には、同伴者数)、② 郵便番号・住所・電話番号、
③ 卒業学科名・卒業年度、④ 座談会の出欠、⑤ ウェルカムパーティーの出欠

当日参加も受付いたします。

● お問い合わせ・ハガキ送付先 ●

〒321-8505 宇都宮市峰町350 宇都宮大学農学部 ホームカミングデー事務局
TEL: 028-649-5410





会長挨拶

峰ヶ丘同窓会会長 和賀井 睦夫（農昭25卒）

同窓生の皆様には、益々ご清栄のこととお喜び申し上げます。

私こと、去る6月開催された峰ヶ丘同窓会理事会におきまして、引き続き会長職を仰せつかりました。

4期8年を経過しており、新しい方に委ねることが妥当であると強く思い、申し上げて参りましたが、諸般の事情から留任ということになりました。もとより非才、責任の重さを改めて痛感しておりますが、お受けしましたからには、副会長はじめ役員の皆さんと、力を合わせ、伝統ある峰ヶ丘同窓会が、更なる発展の道を歩むことができるよう、職務を全うして参る所存でありますので、何とぞよろしくご指導、ご鞭撻の程お願い申し上げます。

同窓会の現況について、少しふれさせて頂きますと、平成26年3月現在の卒業生会員は、旧制、新制の方々合わせまして、14,521名でありまして、国内では、全国47都道府県全部に居られ、ご活躍でございます。この中、41の都道府県には、地域、或は職域を単位とした支部が結成されており、それぞれ、会員の皆さんが、母校への思いを共有しながら、相互の親睦、交流を図っておられます。

また、同窓会が取り組んで参りました、近年における特別の事業といたしましては、一昨年（H24）には、農学部創立90周年の記念すべき年でありましたことから、大学と共催によりまして、記念行事を盛会裏に実施したところでございます。

昨年（H25）は、4年に1度の同窓会々員名簿発行の年でありましたことから、会員各位の格別のご協力の下に

「平成25年版」を発行することができました。改めて、ご協力に感謝申し上げます。

また、今年におきましては、峰ヶ丘祭の期間中である11月22日（土）に全学で、第3回ホームカミングデーが開催されることとなりました。

ホームカミングデーは「お帰りなさい 宇大へ」のキャッチフレーズの下に、平成22年に第1回、同24年に第2回が実施されましたが、卒業生からの要望や、大学としても今まで以上に卒業生との絆を強いものにしていきたいということで、今後は2年に1回、開催することになりました。

同窓会としても、卒業生や恩師が親睦を深め、旧交を温め合う、そしてまた、母校の近況や、在学生に親しく接する貴重な機会でもありますので、今年も2頁に記載のような内容で、開催されることになりました。是非お出で下さるようお待ちしております。

最後になりますが、母校も法人化という大きな制度変革を経ながらも、教育、研究、産官学の連携、そして、地域社会への貢献等に優れた実績をあげ、存在感を高めつつあることは、ご同慶に堪えない次第でございます。然しながら、大学をとりまく環境は、依然として厳しいものがあると、お聞きしており、同窓会といたしましても、今後とも組織の一層の充実、財務基盤の強化といった課題に取り組みながら、母校の更なる発展に貢献できるよう、努めて参る所存でありますので、会員の皆様の変わらぬご支援、ご協力を重ねてお願い申し上げ、ご挨拶とさせていただきます。

特集・附属農場統合30周年記念

宇都宮大学農学部附属農場は、昭和58年4月に当時の峰地区農場及び清原地区農場を現在の真岡市下籠谷に移転統合してから30周年を迎え、平成25年10月19日（土）午前中に附属農場に於いて記念式典が開催されました。午後からは峰地区大学会館に場所を移し、記念シンポジウムとして、「教育関係共同利用拠点フォーラムー大学附属農場を核とするフィールド教育の新しい展開ー」が開催されましたので今号の特集記事として紹介いたします。

1. 宇都宮大学農学部附属農場統合30周年記念式典について

宇都宮大学農学部附属農場は、昭和58年4月に当時の峰地区農場及び清原地区農場を現在の真岡市下籠谷に移転統合してから30周年を迎え、記念式典を10月19日附属農場に於いて開催した。

式典には、栃木県農政部長（代理）、真岡市長（代理）及び統合されてからの歴代農場長を招き、大学教職員などが出席した。居城農場長の開会の辞にはじまり、杉田学部長の式辞、進村学長の挨拶に続いて、全国大学附属農場協議会居城会長（現農場長）、栃木県農政部長代理の和田経

営技術課長、真岡市長代理の内田副市長から祝辞があった。農場の前庭に参加者全員が集まり、進村学長、杉田農学部長および居城農場長の手により、記念樹として「黄金もちの木」を植樹し、長尾次長の閉会の辞により、盛大の内に式典は終了した。

午後からは、記念シンポジウムとして「共同利用拠点フォーラム」を開催し、その後に開催された懇親会では、宇都宮大学に於いて開発された新品種「ゆうだい21」や統合当時の苦労話、最近の教育拠点としての活動などについて、終始和やかな雰囲気の中で懇談が進められた。

附属農場統合三十周年記念式典

次 第

- 1、開式の辞
宇都宮大学農学部附属農場長 居城 幸夫
- 2、式 辞
宇都宮大学農学部長 杉田 昭栄
- 3、挨 拶
宇都宮大学長 進村 武男
- 4、祝 辞
全国大学農場協議会会長 居城 幸夫
栃木県農政部長 水沼 裕治
真岡市長 井田 隆一
- 5、祝電披露
宇都宮大学農学部附属農場准教授 高橋 行継
- 6、植 樹 式
宇都宮大学長 進村 武男
宇都宮大学農学部長 杉田 昭栄
宇都宮大学農学部附属農場長 居城 幸夫
- 7、閉式の辞
宇都宮大学農学部附属農場次長 長尾 慶和

2. 宇都宮大学において教育関係共同利用拠点フォーラムを開催

宇都宮大学は、10月19日に「大学附属農場を核とするフィールド教育の新しい展開」と題した教育関係共同利用拠点フォーラムを、全国大学附属農場協議会共催、文部科学省後援により開催した。

宇都宮大学農学部附属農場は、平成22年度に、食・生命・環境の教育フィールドとして、文部科学省の教育関係共同利用拠点に認定され、以来24年度までに通算約800名の学生に対して、大学ごとのオーダーメイドな実習を提供してきた。参加者へのアンケートでは、「大変満足」との回答がほとんどであり、新しい異分野融合型の大学間連携が注目を集めている。



記念植樹する居城農場長、進村学長
杉田農学部長（左から）



附属農場統合30周年記念式典



教育関係共同利用拠点フォーラム
パネルディスカッションの様子

フォーラムには、全国各地から100名を超す参加者があり、居城農場長の開会の辞にはじまり、進村学長の挨拶、文部科学省高等教育局金子実視学官及び人間総合科学大学桑田有教授の基調講演に続き、自治医科大学中村好一教授の進行の基で、パネルディスカッションが行われ、当農場の長尾教授、女子栄養大学井元教授、人間総合科学大学風見講師、お茶の水女子大学藤原教授、連合大学院生の緒方氏さらに宇都宮大学と同年度に認定された広島大学谷田教授による事例報告がなされ、それらに対して、聴衆者からの質問など、活発な意見交換が行われた。最後に杉田農学部長の総括、茅野理事・副学長による閉会の辞により、盛大の内に行われた。

教育関係共同利用拠点フォーラム

ー 大学附属農場を核とするフィールド教育の新しい展開 ー

プログラム	
13:00▶13:05	開 会 宇都宮大学農学部附属農場長……………居城 幸夫
13:05▶13:10	学長挨拶 宇都宮大学学長……………進村 武男
13:10▶13:50	基調講演:大学改革と農学教育 文部科学省高等教育局視学官……………金子 実
13:50▶14:30	基調講演:フィールドで食・生命・環境を学ぶ意義 人間総合科学大学教授……………桑田 有
14:30▶14:45	休 憩
14:45▶17:15	パネルディスカッション テーマ: 大学農場における実践的フィールド教育の多面的効果 進行:自治医科大学 教授……………中村 好一 宇都宮大学におけるフィールド教育拠点活動 宇都宮大学 教授……………長尾 慶和 家庭科教諭養成課程における教育効果 女子栄養大学 教授……………井元 りえ 管理栄養士養成課程における教育効果 人間総合科学大学 講師……………風見 公子 大学院高度食育専門家養成課程における教育効果 お茶の水女子大学 教授……………藤原 葉子 拠点大学における教育効果 一指導補助学生の視点からー 東京農工大学連合農学研究科博士課程 (宇都宮大学長尾研究室)……………緒方 和子 広島大学における共同利用拠点の取り組み 広島大学 教授……………谷田 創
	16:45▶17:15 総合ディスカッション
	17:15▶17:25 総 括 宇都宮大学農学部長……………杉田 昭栄
	17:25▶17:30 閉 会 宇都宮大学理事・副学長……………茅野基次郎
	17:45▶ 懇 親 会 (宇都宮大学生協)

全体進行: 宇都宮大学准教授……………高橋 行継

新入生歓迎会の開催

平成26年度農学部新入生歓迎会を4月8日(火)午後4時30分から、大会館内生協食堂において開催しました。混声合唱団による大学歌斉唱で始まり、会長挨拶、同窓会や学生支援制度についての説明の後、杉田学部長から乾杯の挨拶をいただき、懇親会を行いました。途中、先輩による歓迎の言葉や歓迎の歌等も披露されました。新入生は202名が参加し、最近5、6年では最多の参加者数でありました。その他教員、学生評議員の参加も多く、盛会でありました。



退職の挨拶



生物生産科学科 植物生産学講座
比較農学研究室
本條 均

1995年10月1日に助教授として赴任以来18年半お世話になり、有り難うございました。「比較農学」と珍しい研究室名でもあり、それまで農水省果樹研究所他で通算21年半の間、農業気象分野の研究を続けていたので、少し不安があり、園芸学会果樹部会で知己を得ていた当時の岸本先生（現名誉教授）に赴任前に相談に伺いましたことが昨日のこのようです。赴任後、研究室のテーマである国際交流に関し、JICAプロ「南伯小規模園芸研究協力計画」に専門家として2回（1997年6～10月、1999年11～12月）渡伯する機会を得て、以降のブラジル国農牧研究センター温帯農牧研究所他との研究交流により、国際学会・シンポジウムへの招聘3回、2回の来学セミナー実施、留学生受け入れ等による共同研究を続けられたことが誇りです。

講義では、「人間生活と植物（分担開講）」を担当でき、調査収集してきた資料を活用し、果物づくりから見た果樹を話題に自由に楽しくできたことが大きな喜びです。また、公開講座で小中学生を対象に色々な果実を触りながら植物と果物の話をできたことも貴重な体験となりました。

研究では、温暖化に適応する農業生産の持続性のため、植物と環境反応の解明に取り組み、植物の季節現象の変動解析を用いた地球温暖化・都市化の影響評価と温暖化に適応した落葉果樹の安定栽培のための生育制御技術の開発を行い、関連して科研費1件、農水省受託研究7件などを得て、微気象改変による薬剤や化石燃料に頼らない落葉果樹の発芽・開花の制御技術も実証でき、農水省プロジェクト「果樹・茶における温暖化適応技術の開発」では主要成果にも選ばれたことや模擬授業・講演会などを通じて、研究成果の社会への還元にも役立てたと思っています。

多くの卒業生・修了生が社会で活躍してくれているのが本当に嬉しく思います。最後になりましたが、長い間ご支援を賜った教職員の皆様に心から御礼申し上げます。



新しい農学と経済学の連携をめざして
農業経済学科 農業経済社会学講座
守友 裕一

農業構造問題研究の第一人者であった宇佐美繁先生が急逝され、その後任として2004年4月に、福島大学経済学部から宇都宮大学農学部へ異動してきました。農業経済学科では「地域社会学」、「農業構造論」を、東日本大震災後は「希望の地域社会論」も講義してきました。また前任校時代から引き続き、農業・農村の内発的発展について調査研究を行ってきました。

ここ数年の教育・研究で印象的であったのは、学生とともにいった、集落活性化事業でした。過疎の農山村に出かけ、集落の方々とともに、「集落点検ワークショップ」を重ねていきました。

そこでは、何も知らない学生達が、地域の方々と集落内を歩き、わからないことを地域の方々から教えていただき、逆に地域の方々は、「学生さん、そんなことも知らないの」ということを「発見」し、そこで自分達の持つ暮らしの技や地域の良さを再認識することとなりました。そうして地域の良さを再発見し、一段レベルの上がった地域の方々から、学生達はより深く学んでいけるという関係を構築できました。

私はこれを地域の方々と学生との「二重のスパイラル的発展」と名付けておりましたが、地域の方々の自己発見ならびに自身と地域の発展と、学生の成長とが表裏一体の関係として実現していく姿は大変素晴らしいものでした。

そうこうするうちにあっという間に10年がたち、今年（2014年）4月から再び福島大学へ戻り、原子力災害からの地域の再生をめざす、大学院経済学研究科の「地域産業復興プログラム（ふくしま未来食・農教育プログラム）」を担当することとなりました。

経済学研究科の中の農学教育というユニークなコース（夜間開講）であり、地域経済学、農業経営学、土壤肥科学、作物学、放射線測定学などを学んでいくというものです。社会人の大学院生（農家、自治体、農協、土地改良区の職員など）とともに、福島県の復興をめざして調査研究、地域支援を続けております。この点宇都宮大学農学部で皆様から学んだことが大変役立っております。

宇都宮大学農学部同窓生の皆様、教職員の皆様に、よりいっそうのご指導、ご支援をお願いし、10年間の宇都宮大学での教育、研究生活のお礼とさせていただきます。ありがとうございました。

オープンキャンパス

宇都宮大学オープンキャンパスが2014年7月21日（祝）に開催されました。農学部では学部・学科の説明、模擬授業、研究室紹介パネルの展示、入学相談などに約1,500名の来場者がありました。



新任教員あいさつ



金野 尚武

所属・職種：農学部 応用生命化学科
准教授

専門：生物高分子材料学、木質科学、
応用糖質科学

2013年10月に応用生命化学科の准教授に着任いたしました金野と申します。岩手県出身で、2004年に宇都宮大学農学部生物生産科学科を卒業、2006年に同農学研究科修士課程を修了いたしました。その後、東京大学大学院農学生命科学研究科の博士課程、岩手生物工学研究センターの研究員を経て、この度、宇都宮大学に勤務することになりましたので、一言ご挨拶申し上げます。

私は「バイオマスの高度利用」を目的に研究を進めております。循環型社会構築に向けて新たなバイオマス利用法は必須です。豊富な資源をもつ栃木県から最先端の利用技術を発信していくことが重要だと考えます。前職の岩手生物工学研究センターでは、「きのこ」に関する研究を行っておりました。バイオマスの中心は木材ですが、きのこは「木材を完全分解」できる唯一の生物です。また貴重な機能性物質を含む「食べられる菌」でもあります。多くの可能性を持つきのこを材料に、バイオマスの高度利用に関する基礎的な成果を生みながら、社会に還元していきたいと考えています。

8年ぶりに本学に戻り後輩たちを見て、自身の在学中と比べ皆とても勤勉で、実習等に対しても積極的だと感じました。一方で、自身の能力や仕事等、多くの将来に対する不安を抱えているように思いました。OBの1人として、もがきながらも前進していく姿を示しながら、後輩たちが将来に希望が持てるような教育活動に務めたいと思っております。

最後になりましたが、皆様どうぞご指導ご鞭撻の程、宜しくお願いいたします。



大島 潤一

所属・職種：農学部附属演習林 講師
専門：森林資源管理学

本年7月に農学部附属演習林に講師として着任しました大島と申します。山形県米沢市生まれ、高校卒業後、宇都宮大学農学部森林科学科に進学しました。宇都宮大学では大学・大学院と6年間過ごし、大学院を修了後、山形県に入庁しました。山形県では、本年6月までの14年間、林務職員として出先機関を転々としながら治山、林道、林業普及指導、県民の森の管理運営、造林、木材加工の試験研究など森林・林業行政全般にわたって様々な現場経験をしてきました。この度、ご縁がありまして母校宇都宮大学に

戻り、教員として勤務することになり本当に光栄に存じております。特に学生時代にお世話になった先生方や先輩と一緒に働くことができることを大変嬉しく感じております。演習林では、農学部森林科学科と連携を取りながら学生の実習指導を行っています。今までの県職員としての現場経験を活かしながら、学生に現場実践主義の重要性を伝え、社会人としての基礎力を養うとともに、しっかりとした倫理観を持つ人材を育てていきたいと考えています。

専門分野は、森林資源管理学で、森林資源の持続可能な経営管理、並びに森林資源の有効活用について研究しています。現在は、木材を効率的かつ効果的に生産するために、樹木の材質を評価し、エリート選抜を行う材質育種について取り組んでいます。今後は、演習林のフィールドを活用しながら森林・林業が直面している課題の解決に向けて調査試験等を実施していく予定です。

最後になりましたが、農学部教員の一人として、宇都宮大学の発展に貢献できるように精一杯頑張りますので、教職員・大学関係者の皆様には今後ともご指導ご鞭撻賜りますようよろしくお願い申し上げます。



水重 貴文

所属・職種：農学部 応用生命化学科
准教授

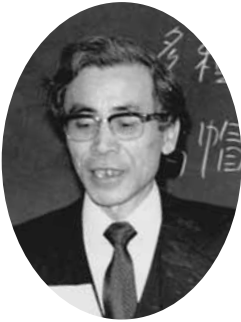
専門：生物機能化学・栄養化学

2014年3月に応用生命化学科生物化学研究室の准教授として着任いたしました水重と申します。出身は香川県で、修士課程までは愛媛県、博士後期課程は京都府、学位取得後、米国カンザスシティ、愛媛県、京都府と移動しました。このたび、宇都宮大学農学部に参りましたので、皆様にご挨拶を申し上げます。

私の専門は栄養化学で、動物個体や動物細胞を用いて、さまざまな食品成分の機能性、特に、脳神経系で調節されている「摂食行動」、「美味しさの形成や強化」、「精神的ストレスに対する応答」について研究を進めてきました。我が国では、高齢化が急速に進み、また精神疾患や摂食障害などの神経疾患の患者数が年々増加しており、問題となっております。今後も、これまでの経験を生かして、脳神経系に作用し、神経疾患を予防・改善できる新たな食品成分を探索したいと考えています。日常の食事を改善することで元気で健康な身体が長く維持できるような情報を提供することを目指しています。

研究活動に加え、教育にも一所懸命取り組み、生命の恒常性の維持に不可欠な「食」の重要性を理解し、「食」に関する知識や研究法を身につけた学生を育成していきたいと思っております。最後になりましたが、宇都宮大学ならびに地域社会の発展に貢献できますように努力してまいりますので、ご指導のほどよろしくお願い申し上げます。

追悼



各務春雄先生を偲ぶ

各務春雄先生が平成25年11月15日、98歳で亡くなりました。その年の正月に「97歳になりました。元気にしております」との賀状をいただき、先生のように矍鑠としていたものだと思えていただけに、残念でなりません。

せん。

先生には学生時代からお世話になりました。田中義英『入門 農業複式簿記』をテキストに用い、懇切丁寧に講義をしていただいたおかげで、その後の農業経営研究生活において簿記の苦労をせずにすみました。

先生の授業で思い出すのが、テンポの良いわかりやすい講義もさることながら、途中で、いつもタバコ（スリーエー）の一服休憩が入ったことです。最初、驚きましたが、とてもダンディでサマになっている。農経の先生たちには行きつけの喫茶店があり、中でも各務先生は、コーヒーを嗜み、両刻みのタバコを銜えながら、沈黙考する姿が絵になっており、ママさんたちにモテているとの噂でした。

昭和54年、定年で退官されるまでの、3年ほどの短い期間でしたが、同じ職場で身近に接する機会に恵まれました。ダンディぶりに変わりはありませんでしたが、農経の先生たちとの酒の席で、例の喫茶店のママさんを巡って、「新聞紙に穴をあけ・・・先生（競合相手）の様子をこっそり伺っていた」などとからかわれ、「エヘヘ」と頭を掻くなど、少年のような茶目っ気な面も持ち合わせておりました。

最終講義は、専門の研究分野とは異なる、戦後抑留されていた時代のソビエト農業に関するものでした。先生にとってシベリア抑留は特別の経験であったのでしょうか。性能が必ずしもよくない大型農業機械による作業はいかに大変かという内容の話であった。不謹慎にも、背後にある「辛さ」には思いが及ばなかった。

定年後は生まれ故郷の岐阜に戻られ、当初はよく宇都宮を訪れてくれたが、奥様を亡くされ、老人ホーム（ミソノピア）で暮らすようになってからは、年賀状でのやりとりだけになってしまった。そんなある日、確か90歳になられた頃のことと記憶しているが、突然、電話がかかってきた。「老人ホームの仲間と農学の勉強会をするのでG. G. Cannonの著書Great Men of Modern Agricultureを貸してほしい」と。

生涯研究者。あやかりたいものである。 合掌
(経45卒 津谷好人)



倉持仁志先生を偲ぶ

それはあまりにも突然の訃報でした。情報が錯綜したこともあり、遭難されたという連絡と相前後して倉持先生のご遺体が発見されたという悲報が届けられました。

倉持先生は、私が農学部附属雑草防除研究施設に助手として赴任

した時に卒論生として配属されていました。当時から非常にアクティブで趣味も多彩でした。特に、耕耘機のようなゴツイタイヤを履いたセリカを乗り回していたのが印象的でした。数多い趣味の中でも釣りが大好きで、特に溪流釣りを愛していました。そんな大好きな溪流釣りで事故に遭われたことは慚愧に堪えませんが、お通夜の席では、倉持先生らしいという声も聞きました。

倉持先生は大学卒業後、三井石油化学に入社され、除草剤の研究開発に携わられました。有望な除草剤候補化合物を選抜され、主に米国で広範囲な圃場試験を担当されました。竹松先生を米国での圃場試験に案内されたこともあり

ました。倉持先生は三井石油化学を退職後、竹松先生の創設された研究所で除草剤の開発研究を続けられ、その後、助手として宇都宮大学雑草科学研究センターに赴任されました。センター着任後は除草剤の開発研究に加えて、緑化資材の開発・育種に精力的に取り組まれ、「イワダレソウ」を世に出されました。「イワダレソウ」は緑化資材として学内外で広く利用・栽培されています。倉持先生は夏季は6時前にはセンターの温室で作業を始められ、8時半過ぎには汗をぬぐいながら圃場から戻って来られました。また、屋上緑化研究にも取り組まれ、旧雑草科学研究センターの改修後に屋上緑化実験用のスペースが整備されることを楽しみにされていました。改修に先だって倉持先生達が運び上げたセンター屋上の資材がすべて撤去されました。十数年ぶりにガラとした屋上は、大きな穴が空いたように感じました。

学内にも「イワダレソウ」が植栽されていますが、誰も手入れしないまま放置された結果、シロツメクサなどに占領されています。しかし、暖かくなって「イワダレソウ」が元気を取り戻し、小さな花を咲かせていました。「イワダレソウ」を始めとした倉持先生のご研究の多くの成果は、今後も輝き続けることと確信しています。最期に謹んで倉持先生のご冥福をお祈りします。

(バイオサイエンス教育研究センター 米山 弘一)





前田禎三先生を偲ぶ

先生は今年1月5日早朝、13年7ヶ月に及ぶ長い闘病生活の後89歳の生涯を閉じられました。昭和62年2月に在職中急逝された林学科造林学研究室の故薄井宏教授の後任として、昭和62年5月に教授として着任されました。その後、

平成2年3月までの約3年間在職され、林学科の造林学、樹木学、森林土壌学の講義ならびに実習を担当、また研究室の卒論生17名、修論生4名を指導されました。ご自身の研究では、日本の山地帯落葉広葉樹林のブナ林の天然更新技術開発研究の日本の第一人者として、前職の農林水産省森林総合研究所から続けてこられた膨大な研究成果を宇都宮大学農学部学術報告特輯号〔46巻（1988）〕に「ブナの更新特性と天然更新技術に関する研究」と題してまとめられました。これは現在でもブナ林研究では欠かせない基本文献の一つとして引用され続けています。この永年の功績により平成15年には、日本林学会から功績賞を受賞されました。また地域支援活動では公開植物観察会を主宰し、毎月栃木県内の様々な山へ関心ある一般の方々も交えて引率し植物指導されました、この伝統は125回を超えて現在も研究室行事として継続されています。

先生は赴任後、若いころから運動で鍛えた強靱な体で野山を駆け巡って研究室の学生と野外調査を行い、夏には特にお好きだった水泳で学生と学内のプールで競いあったり、その後は必ずと言っていいほど好きなお酒を学生と夜遅くまで飲んで語り合い、さらに自宅に移って夜半まで飲み明かしたりと、60歳を超えた先生とはとても思えない体力と知力を持ち合わせ、学生と正面からぶつかってお付き合いされました。またその陰には奥様の演子さんの献身的な支えがあり学生が大変お世話になりました。先生は飲み会では豪快に学生の手を握って、頬っぺたにブチューの洗礼を受けたもの（ただし男子学生のみ）も多く、独特の鳥取弁で「だれでもいらっしゃい」と来るものを拒まない接し方は研究室や学科を超えて学生が集まり“前田林学スクール”を形作ったといえます。3年間の短い在職期間でありましたが、先生の教育研究への熱意のみならずライフスタイルすべてが学生に強い影響を与えたと言えましょう。ご戒名の“禅心院撫林禎教居士（ぜんしんいんぶりんていきょうこじ）”にはまさに先生の生きざまがよく表されています。安らかにお休みいただきたいと思います。

（森林科学科 森林生態学・育林学研究室 大久保達弘）



伊庭慶昭先生を偲ぶ

伊庭慶昭先生は平成26年8月28日午前2時30分、ご病気のため81年の生涯を閉じられました。先生は京都大学ご卒業後、果樹試験場、果樹研究所を経て、平成4年4月に本学に教授として迎えられ、平成11年3月まで農業環境工学科の

専門科目の教育あるいは果実の品質評価技術に関する研究などに尽力されました。退職後も農産物流通技術研究会会長をお引き受けになったり、地域のコミュニティセンターでパソコン教室を開いたりして、地域貢献にも尽力されました。

先生は非常に優しく、気さくな、ご性格で、年齢差が離れているにも関わらず、ゼミの学生達に慕われて、煙たがられることなど全くなくご指導に当たられました。分野が異なることから、当初、小生も先生とは面識がありませんでした。このような私と先生がご一緒に楽しく研究・教育できたのは偏に先生のお心遣いと優しさが有ったからと思っています。先生とご一緒したのは僅か7年間で、小生が本学で過ごした39年間のうちの1/5以下という短い時間でしたが、本当に楽しく教育・研究ができた充実した日々でした。

ゼミの学生全てを連れて、山梨県に出向き、農業試験場の協力を得て、度々選果場の現状調査や種々の実測調査を実施しました。糖度測定の後、特に糖度が高く美味しいことが判明しているモモを腹一杯食べられたのも学生にとって大きな喜びであったでしょう。又ほとんど毎年のように、夏期には先生と小生の専門分野、具体的には果実の選果場や野菜の予冷施設などにゼミ学生達と見学旅行をいたしました。これも良い思い出であります。多分ゼミの学生達にとって非常に有意義で、思い出深い楽しいものであったと思います。

小生にとっても先生とご一緒できたことは大変有意義なことでありました。先生のご専門であった果実の品質評価に関する研究、他にも先生とご一緒した研究テーマはご退職後も様々な研究補助金を頂き、継続発展させることができました。本当に感謝の気持ちで一杯です。どうも有り難うございました。心からご冥福をお祈りいたします。

（旧 食品流通工学研究室 工43卒 中島教博）



支部総会（8支部）

全国の支部活動のご紹介です。同窓生の皆様には各県支部に入会頂き、同窓生のつながりを深めて頂きたいと思えます。お問い合わせは、P20の支部長一覧をご参照下さい。

**YAMA
NASHI**

山梨支部総会

平成25年度

「峰ヶ丘同窓会山梨県支部」の平成25年度総会が8月29日、午後6時から、甲府市内のホテル「談露館」において、会員30名の出席をもって、盛大に開催されました。

総会は、山梨県農政部農業技術課長の河野侯光氏（新畜産26回卒）の開会挨拶に始まり、会長の山田公夫氏（旧林23回卒）のあいさつ、事務局からの24年度事業報告や25年度事業計画等の報告を行い、満場一致で承認されました。続いて、最高顧問である岩下勉氏（旧林19回卒）の乾杯により祝宴に移りました。

さて、全国的な課題にもなりますが、本県の農業は担い手の減少・高齢化、それに伴う耕作放棄地の拡大など、大きな構造的な変化に直面しています。祝宴では、このような課題の打開策の相談や日頃の悩み、心配事などに対して、同窓会の最高顧問をはじめとする先輩の方々からの温かいアドバイスや活躍を期待する声が、会場のあちこちから聞こえてきました。特に今回の総会には、卒業間もない会員が多数参加しており、先輩方の声に大変感慨深い表情を見せていました。

祝宴も例年以上に盛大に進行する中でありましたが、参加者全員で来年の再開を約束して、同窓会を終了しました。

幹事 野呂瀬 仁（新農業42回卒）



平成26年度

「峰ヶ丘同窓会山梨県支部」の平成26年度総会が7月31日、午後6時から、毎年恒例の場所、甲府市内のホテル「談露館」において、会員31名の出席をもって、盛大に開催されました。

総会は、山梨県農政部技監の河野侯光氏（新畜産26回卒）の開会挨拶に始まり、会長の山田公夫氏（旧林23回卒）のあいさつ、続いて、事務局からの25年度事業報告や26年度事業計画等の報告を行い、満場一致で承認されました。続いて、最高顧問である岩下勉氏（旧林19回卒）の乾杯により祝宴に移りました。

さて、山梨県の農業は、今年の2月の記録的な大雪により、農業用ハウス、中でもブドウ加温ハウスが大きな被害を受けてしまいました。

今回の大雪による農業関係被害金額の合計は、実に248億円にも達し、その内、農業用施設被害は、約3,400件、

面積にして約250haに上っております。県下の農業用ハウスの約80%が倒壊してしまい、現在、県は、市町村、JAと連携し、倒壊した農業用ハウスの再建を強力に進めているところであります。私たち農業関係者にとっては、本県の施設農業の一刻も早期の復興と体質の強化が図られた新たな産地づくりが大きな課題になっています。

これに加え、担い手の減少・高齢化、それに伴う耕作放棄地の拡大など、大きな構造的な変化に直面し、現在、二面作戦でこれら課題解決に取り組んでおります。

今年の祝宴では、このような課題の打開策の相談や日頃の悩み、心配事などに対して、同窓会の最高顧問をはじめとする先輩の方々からの温かいアドバイスや活躍を期待する声が、会場のあちこちから聞こえてきました。

また、11月22日に宇都宮大学峰キャンパスで開催される、第3回宇都宮大学ホームカミングデーについて、支部長でもある山田会長から、より多くの方の参加がいただけるよう、周知がありました。

祝宴も例年以上に盛大に進行する中でありましたが、参加者全員で第3回宇都宮大学ホームカミングデーへの参加と来年の再会を約束して、同窓会を終了しました。

幹事 野呂瀬 仁（新農学42回卒）



**YAMA
GATA**

山形支部総会

平成26年7月12日(土)、峰ヶ丘同窓会山形支部総会が会員27名の参加により、かみのやま温泉「三木屋」で開催されました。

総会に先立ち、来賓としてお越しいただいた農学部森林科学科の石栗太先生に御講演を賜りました。講演は東南アジアにおける林業と木材に関する内容で、みな熱心に耳を傾け多くの質問が飛び交いました。（学生時代と変わらず？向学心は衰えませんか。）先生には、懇親会において農学部90周年式典の様子なども紹介していただきました。

総会の終了後に行われた懇親会では、久しぶりに集う仲間同士、先輩・後輩の粋を超え近況報告や、学生時代の思い出話に大いに盛り上がりました。お酒が進み、会が盛り上がるにつれ「高等農学校歌」、「宇都宮大学歌ー峰ヶ丘ー」、「宇都宮大学コチャ工節」の大合唱が響き渡り、盛会のうちに終了することが出来ました。

山形支部総会は隔年で、「三木屋」での開催が恒例となっ

ています。山形支部では、比較的若い年代の参加率が高いことに、石栗先生は感心されていました。次回の開催では、さらに多くの会員の方に参加していただきますよう期待しています。 上野 満（森林科学科 平成7年卒）



GUNMA

群馬支部総会

群馬県支部総会は、平成25年11月22日に前橋市内において、香川理事（H3農学卒）をお迎えし、県内各地域から会員51名の出席をいただき盛大に開催されました。

嶋方副支部長（S43総合農学卒）の開会、二見秀隆支部長（S44林学卒）の挨拶に引き続き、ご来賓の香川清彦理事から自作のスライドを交えながら、大学の美しい近況をご紹介していただきました。次いで、中島朗大先輩（S33農学卒）の乾杯の発声で懇親会に入り、大学の思い出話に花が咲きました。最後に、校歌・コチャエ節の大合唱、元応援団長のエール等々大変盛り上がる中で、萩原副支部長（S45農工卒）のユーモラスな大げにより、来年の再会を約しお開きとなりました。

今年も11月に開催予定ですので、群馬県在住の同窓生の皆様の御参加をお待ちいたします。 柏 昌宏（農S55卒）



WAKA YAMA

和歌山支部総会

平成25年5月25日(土)宇都宮大学同窓会和歌山支部総会が、「かごのや」で開催されました。

今回の総会で長く和歌山県支部会長を務められた久保久雄会長（畜産14、S41卒）が勇退され、新しい会長に北畑路明氏（林20、S47卒）が就任することとなりました。

和歌山支部は会員数の少ない小さな支部で参加者も前回より減ってしまい少し寂しい状況ですが、新会長のもと、さらに活動を盛り上げていきたいと思っておりますのでよろしくお願いします。

今回の開催にあたり、峰ヶ丘同窓会から名簿等たくさんの資料を提供いただきましたことに厚くお礼申し上げますとともに、今後ご指導、ご鞭撻の程をよろしくお願い申

し上げます。

仲 兼永（森林H7卒）



AKITA

秋田支部総会

11月23日、秋田市にて開催いたしました峰ヶ丘同窓会秋田支部総会におきましては、本部より小笠原勝先生を派遣いただくなど特段のご配慮をいただき、ありがとうございました。

総会では、学内の近況について、映像を交えての小笠原先生のお話もあり、お陰様をもちまして、参加者23名と少人数ながら、会員一同、旧歓を暖め、大変楽しい一時を過ごすことができました。重ねてお礼申し上げます。

今後とも、当支部活動に対し御指導を賜りますようお願い申し上げますとともに、同総会本部の皆様の御多幸をお祈りいたしまして、失礼ながら書中をもってお礼とさせていただきます。

支部長 石川 次男



FUKU SHIMA

福島支部総会

平成25年11月16日(土)に福島市の「フロンティア」で49名が出席して福島県支部の総会を開催しました。総会では、星恒徳支部長（総農S40卒）が「県内各地から幅広い年代の会員が出席して開催することができた。層相互の親睦を深めるため、周囲の会員を誘って欲しい」と挨拶し、来賓として本部から出席された大栗行昭先生からは災害復興支援の取り組みや学科研究棟・サークル棟の整備状況など大学の近況を紹介していただきました。

最高齢の鎌水武夫支部顧問（農経S18卒）の乾杯の音頭で始まった懇親会では、浜通りの南相馬市にある銀行勤務の宗形賢さん（生物生産H25卒）など2名の新入会員の参加、南会津の田島町長を務めていた室井英彦さん（畜産S35卒）の飛び入り参加、会津若松市の永井修一郎さん（生物生産H18卒）が自ら栽培した瀬戸ジャイアンツやシャインマスカットなど3種類の美味しいブドウの提供などがあり、大いに盛り上がり、峰ヶ丘時代の思い出や互いの近況などの話題に花

を咲かせ楽しいひと時を過ごすことができました。

最後に声高らかに全員で「大学歌」を歌い、大金秀美さん（林学S37卒）の「学縁を大切に」という締め言葉で閉会しました。

今年の総会は11月に郡山市内で開催の予定ですので、県内在住の同窓生の多くの皆さんの参加をお願いします。

事務局長 後藤 達夫（農経S46卒）



TO
YAMA

富山支部総会

平成25年度

平成25年8月9日(金)、富山市内の「しゅん家」において会員8名の参加により富山県支部同窓会を開催しました。

天野支部長（林学科昭和45年卒）の挨拶に続き、前年度の決算報告の承認をいただきました。

総会終了後、峰ヶ丘同窓会本部より来賓の農業環境工学科の田村孝浩准教授から大学の近況等について話をしました。はじめに5月にご逝去された吉澤先生のお話を伺いながら、ご冥福をお祈りするとともに、先生自らが撮影された写真も織り交ぜての峰キャンパスの状況は、今も変わらず美しいフランス式庭園、改修され新しいながらも荘厳さを醸し出す講堂やホテルのロビーの様な農学部東棟、正門や東門周辺の食堂・居酒屋等々があり、各々の当時の学生時代を思い出し、懐かしむ声が漏れ聞こえました。

美しく洗練された学習環境が整備されていく中、かつてのような学生同士の泥臭い人付き合いは徐々に減ってきているとのことで、講義のグループ討議の様子等からその事が伺えるようですが、今後のより一層の母校農学部を発展を願うばかりでした。

続く懇親会では、大学時代の思い出、仕事や趣味の話に花が咲き、楽しいひとときを共有し、梅原氏（農学科昭和35年卒）の万歳三唱で中締めを行い、名残惜しみつつ来年の再会を約束し、盛会のうちに終了することができました。

幹事 亀田 政宏（森林科学平成8年卒）



田村先生を囲んでの集合写真

平成26年度

平成26年8月8日(金)、富山市内の「シャトー（とやま自遊館内）」において会員10名の参加により、富山県支部同窓会を開催しました。

天野支部長（林学科昭和45年卒）の挨拶に続き、前年度の決算報告の承認、役員改選と議事が進み、支部長および幹事のもう一期の継続が決定されました。

総会終了後、峰ヶ丘同窓会本部より来賓としてお越しいただいた石栗太准教授（H9年卒森林科学科）に、大学の近況等についてお話ししました。石栗先生は当総会に3年ぶり3回目のご出席ということで、顔見知りも多いことからその後の会話も弾みました。

写真撮影の後、引き続き同会場で行った懇親会には、今回が初参加の方や十数年ぶりに参加される方もおられ、例年になく新鮮な顔ぶれでの懇親会となりました。

大学時代のサークル活動での思い出話、仕事や趣味の話に花が咲き、楽しいひとときを共有し、深澤氏（林学科昭和36年卒）の一本締めで中締めを行い、名残惜しみつつも、来年のさらなる参加人数増と再会を約束し、盛会のうちに終了することができました。

幹事 亀田 政宏（森林科学平成8年卒）



石栗先生を囲んでの集合写真

WATE

岩手支部総会

平成26年度

去る平成26年8月30日(土)平成26年度宇都宮大学農学部峰ヶ丘同窓会岩手県支部総会が行われました。今年は、宇都宮大学農学部生物資源科学科の吉澤緑教授を来賓を迎え、23名での開催となりました。

総会では、事業報告及び役員の改選が行われ、山口和彦（農学科新18回卒）さんが支部長に再選されました。

また、来賓である吉澤緑先生から大学の近況が報告されるなど、盛会のうちに終了することができました。

菊地 俊次（環H9卒）



クラス会 (18クラス会)

全国のクラス会のご紹介です。毎年たくさんのクラス会が催され、ご寄稿いただいています。

1 47農学科クラス会を開催しました

2013年11月30日～12月1日の1泊で、茨城県北茨城市の五浦海岸の「五浦観光ホテル大観荘」で、開催致しました。15名の参加で、全員が還暦を迎え、それなりの顔つきと頭の具合でありました。

しかし、会食中から、近況報告や、昔話に盛り上がり、幹事の部屋での2次会にも全員が参加し、12時頃まで、話が尽きない状況でした。

また、年のせいか皆さん早起きで、朝風呂に入り、風呂の中から海から出てくる朝日を観て感激致しました。

朝食後、修復した、六角堂を見学し、五浦美術館にも行って、一端の美術者のような雰囲気を感じておりました。

又、地元のお土産などを会費の中から、持って行ってもらい、皆さんとても喜んで満足してくれました。

なお、今回は千葉が埼玉でやることを確認して、解散致しました。 幹事 平林 英男



2 農学科昭和47年卒クラス会

平成25年7月27日、農学科47年卒業のクラス会が5名の恩師の先生方をお迎えし、宇都宮市内のホテルで開催されました。私達のクラス会は、還暦を迎えた平成21年の夏には北海道札幌で、翌年4月には四国四万十市で行われました。また最近では少し時間の余裕もでき、夫婦での参加も増えてきました。先の四国の引継ぎの際、「今回は是非恩師の先生方を囲み、宇都宮でやろう」と決めました。そこで、栃木県在住の3名が幹事となり、開催に向け準備をすることになりました。

当日は、若林先生、寺中先生、岩下先生、藤重先生、松澤先生のご出席を賜り、私達も4組の夫婦を含め23名の参加となりました。出席者の中には本当に久々に会う級友もありましたが、先生方は「やぁ〇〇君、しばらくだね」、「恰幅はよくなったが、当時とかわらないね」などの挨拶で、顔を見るなり名前がポンポンと出るなど、直ちに40数年前の先生と学生に戻りました。会では、先生方の近況をお聞きしながら、また私達自身の話などで盛り上がり、楽

しい時間はあっという間に過ぎてゆきました。記念撮影後、先生方を玄関までお送りしながら市内の散策になりました。

オリオン通り近辺を歩きながら、「この通りに〇〇があったね」、「大学祭の仮装行列で、俺は〇〇を演じながらこの近くを通り過ぎたな」など、若き日を過ごした宇都宮を思い出していたようです。その後、二次会と宿泊により、更に旧交を深めました。しかし、寝る前には私を含め服用している薬の話題が誰からともなく出て、やはり還暦を過ぎたな、というシメで就寝です。今回は、ほとんどの者がフリーになる1～2年後に、東京で開催しようと決めました。翌日は、改修された農学部棟などに立ち寄り、お互い健康に留意しながら再会を約して散会しました。ご苦労様でした。 金子 幸雄



3 畜産学科13回生 錦秋の古都に集う

2015年11月17日～18日、畜産学科13回生が折しも紅葉の観光客で賑わう「京都平安ホテル」に關東北、關西、九州から15名が馳せ参じた。

今回の参加を最も楽しみにしていた愛知の岩瀬が、直前欠席の已む無きに至り自他ともに残念の極みであったが、出席者は先ずはお互いの無事を喜び、旧交を温めた。

我々の在学時は、主食のコメの自給が確立し、果樹園芸や畜産酪農への選択拡大の時代で、就職の受け皿も現在と比較すればかなり恵まれていた良き時代であった。

古希を過ぎた今、各人「足腰が痛い、どこそこが悪い」と体のパーツがあちこち故障した話ばかりで、食前・食後にはいっせいに常備薬の服用が始まった。

敢えて口には出さぬが「体の動くうちに顔を合わせておきたい」との思いがお互いの胸中にあるのが察しられた。

原発災害の避難者受け入れに奔走した福島武藤の体験談は重みがあり、ブラジルで成功した田附と邂逅してきた東京の浅野が、写真を交えての彼の消息を報告したり充実した懇親会であった。

大分の河野が、なかなか宇都宮に行く機会がないので来年は絶対母校の近くで集まろう！と呼びかけ決議した。今回の開催には京都に関しては無類の博覧強記を誇る群馬の板橋が終始運営を仕切って盛り上げてくれた。

翌朝京都御所を拝観した後、来年の再会を期して散会した。
岡田 秀美



前列向かって右より

忍垂紀雄、板橋正六、岡本有史、岡田秀美、小林亮英、栗原光男

後列向かって右より

河野宗太郎、植木保夫、武藤顕夫、横田寛、小形忠司、鳥山秀典、浅野敏彦、梅原琇二、松田博明

4 林学科第8回卒同級会報告

卒業後53年目を迎える同級会を下記の通り開催した。

日時 平成25年9月10日、11日

場所 鬼怒川温泉ホテル

行事 同級会・10日午後6時半開会

見学・東武ワールドスクエア・鬼怒川舟下り

出席者 恩師出井利長先生、同級生9名 計10名

卒業後53年を経て会員の顔触れも大幅に変化した。物故者13名、連絡先不明2名。連絡の取れた23名中9名が出席した。会員の健勝と会の継続とを祈念し併せて物故者の冥福を祈った。翌日は日光猿軍団が今年を以って閉団とのこと、急遽舟下りを猿軍団の観劇に変更し、軍団の妙技とワールドスクエアの繊細な描写を堪能し、再会を約して散会した。

招待者 出井 利長先生

出席者 鈴木 清 高村 正勝 中川 敦夫

(9月11日朝食後帰省)

平野内定一 間杉 鶴男 茂木 博

屋代 眞 矢島 寛 大槻 武徳

物故者 伊藤 治 平成25年7月24日逝去



5 農業経済学科昭和44年卒業 クラス会開催報告

当クラス会は、ここ数年はリタイヤ組が大半を占めるようになってきたので、毎年9月上旬の平日に開催しています。平成25年は9月10日から11日に、東日本大震災の復興支援を兼ね、今話題の福島県いわき市のスパリゾートハワイアンズで開催しました。農芸化学からオブザーバー1名を加え18名の参加となりました。我々が在学中に常盤ハワイアンセンターとしてオープンしたハワイアンズは、今日では垢抜けし、若いカップルやファミリーで平日にもかかわらず満室の盛況でした。我々も写真のようにアロハとムームーに着替え、夕食後はフラガールのショーを観賞し、部屋での2次会で旧交を温め盛り上がりしました。翌日は小名浜港近くの震災で被害を受け再開された水族館アクアマリンを見学し、昼食後現地解散しました。天候にも恵まれ楽しい2日間でした。次回(26年)は岩手で開催を予定しています。

幹事 杉村 博



写真左から〈旧姓〉

前列 関谷 篠崎〈中野〉 小池 伊勢 黒崎 菅井

中列 加藤昌 高根 町田〈岩上〉 朝田〈館野〉

後列 黒須 増田 杉村 近藤 増田〈平川〉

齊藤(農化) 森野 松田

6 農経科第16回 (昭和43年3月卒業) 同級会

平成25年9月10日(火)～11日(水)2年毎の同級会を函館市で17名の参加を得て開催した。今回は栃木県を離れ、函館在住の松田君が幹事となり、エキゾチックな港町を舞台に楽しい同級会となった。

初日、ホテル(日本一朝食のおいしい宿のラヴェスタベイ函館)に集合、懇親会を開催。冒頭、平成24年7月に亡くなった及川君をしのび黙祷、早すぎる別れを惜しんだ。振り返ると同級生も既に3名鬼籍に入っていて、我々はその人達の思いを大切に頑張っていくことを誓い合った。

続いて各人からの近況報告。皆それぞれの環境の中で居場所を確保して元気に過ごしていることがよくわかった。その後これも日本一の夜景を観賞。さらに二次会へと続いていった。翌日は函館市内観光(五稜郭・元町周辺・立待ち岬等)名所旧跡を堪能し、午後散会した。幹事の松田君、素晴らしい企画の同級会、ありがとうございました。感謝感謝です。今回久しぶりの参加は、星野君。次回(平成27年)の幹事にも手を上げてくれ、2回続きの栃木県外となる予

定。星野君よろしくお願ひします。

今回参加出来なかった皆さん、次回はぜひ参加して下さい！

〈出席者〉17名

五十嵐・猪狩・板橋・上野・岡田邦・小平（旧姓＝小川）

木村・桐生・佐藤史・澤田・田村・中田（旧姓＝金田）

星野・松田＝幹事・山本・渡辺公・渡辺武

田村 宏志 記



7

クラス会

農化44卒同窓会

農化44卒同窓生は、平成25年、26年と続けて同窓会を開催しました。25年は、「三春滝桜」の下での同窓会が、東日本大震災によりご破算となり…震災2年後の6月、復興応援の意を含め宮城県で開催しました。「浦霞」蔵元で被災状況を伺い、塩釜神社にお参り後、「松島一の坊」にて旧交を温めました。翌日は仙台以南の沿岸部を南下、心の痛みと復旧の遅れに怒りが湧き上がるのを禁じえないまま、福島駅で解散しました。参加16名（山田 記）

26年の同窓会は、「山形の桜と蔵王温泉にて旧交を温める」をテーマに開催し15名の参加を得て開催しました。桜の開花は気候に左右され開催時期の選定が難しいのですが置賜さくら回廊は樹齢千年を超えるエドヒガン桜が満開で元気と福をおすそ分けして貰いました。桜尽くしの二日間を後に次回の再会を約束し、山形駅を離れました。（柳澤 記）



8

クラス会

畜産科38年卒同級会（新11回） 《福島の復興支援を兼ねていわき市で開催》

卒業後50年の節目にあたり、級友の絆を深め合うとともに福島の復興支援と吉田公一君（前衆議院議員・前農林水

産副大臣）の長年の政治活動の慰労を兼ねて平成25年9月24日～25日の2日間、いわき市の「スパリゾートハワイアンズ」で開催しました。

自家用車や遠くは姫路市から（福島空港）、関東近辺からは無料送迎バス（東京駅南口ほか）を利用し、卒業生24名（うち故人2名）中12名が参加しました。

東日本大震災・原発事故から2年6か月が過ぎ、今尚約15万人の福島県民が県内外に避難を余儀なくされており、1日も早い復旧・復興を願うとともに、風評被害払拭の一助としていわき市に集い、旧交を温め合い、吉田君を慰労し、フラガールによるポリネシアンショーを楽しみました。

翌日は、石灰化石館、塩屋崎灯台（乱れ髪歌碑）、津波被災地現場、マリントワー、アクアマリンふくしま（海洋学習館）、いわき・ら・ら・ミュウ（観光物産センター）を視察し、検めて津波の猛威を想像しながら、被災者への供養とお見舞いを心にしました。

物産センターでは地元水揚げ魚貝類は皆無に等しく、原発事故による操業自粛の影響が続いており、一刻も早い原発の収束を望むばかりです。

今回の同級会は内容の濃い2日間だったと幹事として自負しております。

今回の開催は今回参加を予定していた3～4人を含め、多くの級友が参加していただけることを期待しております。



出席者

前列右より 鈴木、渡辺、渋谷、吉田、高山、有賀
後列右より 三浦、飯田、浦辺、片寄、岡本、本多

幹事 本多 忠紀

9

クラス会

林学科新10回（昭和37年卒） 同期会のご紹介

私達の同期会は、卒業後約30年間は2年から5年の間隔で随時行っていましたが、卒業30周年を迎えた平成4年の同期会を機に、以後は2年に一度定期的に行っています。開催地は、当番の御苦労と気分転換も考えて、北海道組、青森・秋田・新潟・宮城・福島の東北組、栃木組、東京・神奈川・千葉・埼玉の首都圏組の4ブロックが持ち回りで実施しております。平成24年の同期会は奇しくも農学部創立90周年記念の年にあたるので、この機を逃さず久しぶりに母校訪問も織り込み栃木組が担当し、県職員会館（ニューみくら）で実施しました。

構内見学はUUプラザの斎藤女子の案内を頂き、大修理で永久保存が決まった「峰ヶ丘講堂」や懐かしいフランス式庭園、新しい建物では平成4年に発足した国際学部や広

く市民にも公開されている図書館、食堂と交流の場である大学会館などを見学しました。懐かしい旧林学科の研究室の見学は後輩にあたる飯塚先生、学生の平岩女子ご両名の案内を頂き往時を偲び有意義な一時を過ごしました。出席者の中には卒業後始めて母校を訪れた人も居て特に感慨無量のようでした。

さて今回の同期会には、ご高齢ながら今でも宇大野球部の監督や県キノコ同好会の会長などで活躍しておられる恩師で林学科の先輩でもある出井先生の出席を頂き、懐かしい学生時代の思い出話に花が咲き、会是一段と盛り上がりしました。

今回の出席者数は、ここ数年の中では一番少なく15名でしたが、それは本人の体調が思わしくない方だけでなく、奥さんが急逝した人や奥さんの介護で出歩けなくなった人が出たためです。

さて我々も世に言う後期高齢者の仲間入りした年代ですので年毎に出席者が減るのは当然ですが、一回でも多く同期会に出席し続けられるよう日頃の健康管理に努力しあっています。

終わりに、今回は卒業50周年の同期会なので、最初で最後になるであろうと思いながら、皆さんの協力を得て、お互いの近況や思い出話を取りまとめ、記念誌「学びの友 半世紀の年輪を重ねて」を作成した事及び本記事の会報掲載にあたって同窓会事務局の多田さんには大変お世話になった事を付記して終わりと致します。 記事提供者 敦賀・山田



前列：左から大宮、松原、川口、出井先生、河原田
小野寺、大沼、大金の各氏
後列：左から小林、大気、三浦（俊英）、盛、類地
山田、敦賀、大淵の各氏

10 農業工学科昭和36年度 入学クラス会報告

2013年、猛暑が去った9月18日(木)、伊香保温泉岸権旅館において「平成25年度宇都宮大学農業工学科S36年度入学クラス会」が開催された。

受付開始2時間前に第1陣が到着、すこぶる出足快調な集まりで、宴会までに全員が「黄金の湯」を堪能し、おそろいの浴衣姿で記念写真に納まった。

卒業時33名いた仲間もすでに5名が他界し、現会員は28名である。出席者13名、欠席15名で、欠席者の中に入院やリハビリ中の者が6名もいたが、何となく納得できるのもおかしい。

開会に先立って、伊集院義勝君から自費出版した「旅エッ

セイ集 風来人」が出席者全員に進呈された。

18：30 幹事のあいさつで厳かに始まったクラス会であったが、「旅エッセイ集 風来人」出版の弁をひとくさり拝聴したあと、早川功君の乾杯の音頭で一気に加速していった。「絵の個展をする」「中国で農業技術援助に協力している」「孫の世話」「釣り三昧」「棚田の保存」「一本の樹に数千個(?)の実をつけさせるトマト栽培」「夫婦でクロアチア、セルビア、ウズベキスタン、トルクメンへの旅」「現役時代より稼いでいる」等々となんとも不思議な現況報告を着に瞬く間に終盤へ…校歌、コチャ工節、宇都宮の歌の合唱…。

20：50 会は、根岸輝夫君の発声による「関東一本締め」でめでたく閉会した。

引き続き幹事部屋で二次会、用意したビール、清酒、焼酎、ウイスキーをあおり、つまみを頬張り、「次期幹事の件」をテーマに、真夜中まで討論に及んだが中途半端な結論を得ただけで幕切れとなった。

9月20日(金)は、伊香保温泉に縁のあった芸術家の足跡をたずねて石段街を散策し、徳富蘆花記念文学館、保科美術館などを見学して、11：30に解散した。(文責 真砂 洋治)



前列左より 森 伊集院 田沼 内池 真砂 早川
2列目左より 石井 北条 中本
後列左より 春日 横山 川畑 根岸

11 農学科33卒クラス会開催

毎年開催されている恒例のクラス会、今年は7月7日一泊二日の日程で、茨城・大洗町の鷗松亭で行われ、遠くは秋田市や春日井市から参上。

総員16名の参加で特に今回は茨城の印象付けに、筑波山ガマの油売り口上士、師範 筑波和光 さんに口上を演じて頂き、会場を盛り上げていただいた。 幹事 高野 茂



12 クラス会 小樽に遊ぶ（農化16回卒）

平成25年度のクラス会を人気スポットでもある小樽で行った。6組の同伴者を含め19名の参加者は千歳空港やJR函館経由で、秋の深まる10月初旬札幌駅に集合、再会に皆喜び合った。宴会は小樽の奥座敷の名湯、昭和29年開湯した朝里川温泉で1次～3次会と楽しいひと時を過ごした。トピックスは6組の夫婦が漏れなく仲良くカラオケ熱唱、周りを刺激したことだ。翌日は小樽自由観光で美術館、北一硝子、オルゴール堂、石原裕次郎館、旧青山別邸、運河めぐり等を楽しみ、名高い小樽寿司で昼食後、翌年台湾での再会を約束して解散となった。その後札幌宿泊者11名は夜、札幌ビール園にて名物ジンギスカン料理を満喫。元気で長生きの秘訣は笑いと食欲、年齢を重ねても前向きな挑戦と感じた。同期よ 先はまだ長い、互いに頑張ろう。

札幌 伊藤 昭夫



13 農芸化学科第19回生 クラス会報告

例年は関東や福島といった栃木県近辺で開かれていたクラス会でしたが、2013年の農芸化学科第19回生クラス会は11月15日から2泊3日の日程で奈良にて行われました。＝幹事は奈良在住の中島氏＝

中島氏は1年をかけて奈良の記事を同級生に送り続けてくれ、奈良への関心が高まる中の開催でした。定年を迎えつつも何かと忙しい世代ですが、遠方にも関わらず13名の参加、ちょうど紅葉の始まった素晴らしい奈良での3日間でした。

1日目は春日大社・東大寺など市内を歩き、夜は大阪での宴会。各地の銘酒を持ち寄り、また、不参加の方々からも貴重なお酒が届いており、農芸化学卒業生らしくその味を楽しみつつ、楽しい話題で盛り上がりしました。心地よい気分で法善寺横丁、道頓堀ペリを歩き、奈良へ戻ってのカラオケ大会も楽しい時間でした。

翌日はマイクロバスにて紅葉の室生寺・長谷寺・談山神社・長岳寺・そして平城京跡となかなか個人旅行ではすべてを一日では回れない見どころを案内していただき一同奥深い奈良を堪能しました。在学中、ワングル部所属者が多く、また、スポーツサークル所属の多かった19回生、60の坂を越してもなお健脚であり、揃って室生寺奥の院参拝もでき、それぞれの健康に感謝する思いでした。長谷寺境内

でいただいた柿の葉寿司も学生時代のハイキングの続きのようで一層おいしいものでした。談山神社の紅葉は友の顔も赤く染まる見事なもの、夕日が沈んでいく平城京の風景も素晴らしく、奈良盆地の中心にたつ古人の心境を感じるものでした。その後、奈良の夜景を楽しみ、2日目の宴会となり、来年のクラス会は児玉氏・阿部氏の幹事で田沢湖にて開催が決まりました。

3日目は明日香サイクリングツアー、ちょうど小春日和のお天気で明日香の風を感じつつ、甘樫丘・飛鳥寺・石舞台などを巡りました。

集合も離散もそれぞれの都合に合わせていろいろと手配してくださったり、後日早々にアルバムをネット上に作成してくださったりと至れり尽くせりの幹事・中島氏に深く感謝です。後日、鈴木氏から奈良を詠んだ歌が届き、写真とともにいい思い出です。

六十路半ば同級会は錦秋の大和路護符を孫に伴侶に甘樫の丘より望む大和三山万葉人に思いを馳せて今回参加者

阿部・小川・児玉・桑川・渋谷・鈴木（＝旧五百部）・高崎・中島・福島・三好・山路・山田・柴田（＝旧川上）以上13名



14 林学科第14回生クラス会報告

林学科第14回生クラス会を平成25年9月30日～10月1日、世界遺産登録になった日光、そして東京の奥座敷鬼怒川温泉で行いました。前回の青森県浅虫温泉（平成22年）の会で、今回は古稀を迎える年に、母校の地元栃木県でとの約束のもと、地元の仲間がとりまとめ、総勢20名（同伴者3名を含む）の会となりました。

会の性格上、年を経ると共に増えることのない会員の減少に一抹の寂しさを禁じ得ません。今回は菅野国男氏の物故が報告されました。謹んでご冥福をお祈りいたします。

宴会では各自の近況やら、これからのことなどが報告され、それぞれが配偶者を含め体力の衰え等、過去の会では聞けなかった会員の变化を感じたところでした。それでも新たに生活の活路を見出し、それなりに生き生きと活動している会員も少なくなく、彼らの元気な生きかたがみやげになったと思います。二次会では皆が学生時代の思い出に戻り、夜のふけまでの話に栃木の地酒天鷹酒造の大吟醸「絆」が花をそえたようでした。

次回については、あと何回出来るか危ぶまれる折、塚本

氏の勇断で岐阜で行うことが決り、元気で再会することを誓ったところです。2日目はそれぞれが船生演習林や母校を訪問するなど自由解散となりました。

なお、故菅野氏にまつわる、鈴木氏他数人の友情の秘話があったことを追記しておきたいと思います。

参加者

浅田、荒井（紀）、荒井（賛）、荒川、尾本、岸、小館、小林、斉藤（勝）、斉藤（和）、鈴木、関沢、田村、塚本、丸山（芳）、吉田、渡辺
（幹事 荒井・荒川・尾本・斉藤）



15 農学科昭和42年入学生 クラス会

農学科昭和42年入学クラス会を2014年5月30日に兵庫県相生市「ホテル万葉の岬」で行いました。参加者は9名で兵庫在住の橋本さんに幹事を務めていただきました。今まで関西での同窓会は遠距離のため行われていませんでした。前回、鬼怒川で開催し3年後に又、福島で会おうと約束しましたが、帰途、関西で一度有志だけでも集まろうと提案あり、プチ同窓会開催の運びとなりました。宿も幹事のお骨折りで万葉の歌人、山部赤人も訪れた瀬戸内海を一望する景勝地、又酒宴も瀬戸の桜鯛づくしに舌ずつみを打ち、大いに盛り上がりました。翌日の釣りや観光のこと、家族や仕事のこと、健康や友人のこと話は尽きず・・・翌朝に2015年に福島で再会することを約して散会しました。

記 湯本 耿介



16 第12回林学科昭和39年3月卒業 クラス会「濁り酒会」開催報告

林学科昭和39年（1964）年3月卒業生35名の「濁り酒会」会員中、すでに9名（伊藤忠敬氏、井野一正氏、笠原義人氏、斎藤（小野寺）毅氏、櫻谷捷治氏、澤村紀彰氏、柴田篁美氏、鈴木宏昌氏、田中宣男氏）が逝去された。残された年男（72歳）の壁を超えた26名の仲間も、薬等の世話になりながら病氣と共存生活を頑張っており、何とか都合をつけた11名の仲間とその令夫人3名が、平成25年7月15日（祭日／海の日）～16日（火）、群馬県渋川市、古くは万葉集や古今集の歌に詠まれた湯の街、伊香保温泉の五つ星旅館岸権（きしごん）に集結した。源泉かけ流し湯量たっぷりの各種湯船に、五臓六腑の疲れを癒し、心身の奥深くまで温まり宴会となった。まず上記の亡き親友に献杯を捧げ、良き友との思い出に花を咲かせ、贅沢な味覚に舌鼓を打ち、部屋での二次会にお互いの健康を祈り懇談した。石段街を中心とした古き良き温泉情緒たっぷりの温泉街、伊香保神社、ハワイ公使、徳富蘆花記念文学館などの名跡を訪れた後、世界遺産へ登録申請中の富岡製糸場、一之宮貫前神社、多胡碑などの歴史探訪をして、次回も「生き延びてまた会おう」と確約して解散となった。



農学部林学科昭和39年3月卒「濁り酒会」
(2013.7.15～16 伊香保温泉、岸権旅館)

写真後列右から、太田清毅氏（幹事）、寺内静憲氏、高野佳延氏（幹事）、伊藤孝氏（幹事）、麦倉義雄氏、角田脩道氏（幹事長）、井波彬朗氏、増子博氏
写真前列右から、菊池政泰氏、小野隆一氏、大崎のぶ子夫人、小野律子夫人、増子比呂美夫人、大崎俊彦（筆者）

17 林学科11回生（昭和38年卒） クラス会報告

毎年、各県持ち回りで実施しているクラス会も今年は卒業50年の節目であることから、地元で開催することになり平成25年6月18日～19日の2日間、塩原温泉「湯の花荘」で夫人同伴9名と合わせ24名の参加で開催した。

氏家君の司会より始まった懇親会は始めに今は亡き級友6名のご冥福を祈り黙祷。次に幹事を代表して田村君から峰ヶ丘時代の思い出や当時の写真（卒業アルバムから）の説明を含めた歓迎の挨拶があり、北海道から久し振りに参加した武石君の乾杯で懇談となる。その後各人の近況報告や田村夫人のリードによるジャンケンと各人持ちよりの特産品交換会を童心に返りつつ楽しみ、別室でのカラオケ大

会、3次会と大いに飲み語り合い最後に恒例の「林学科の歌」を肩を組み合い大合唱して終る。

健康にはそれぞれ少なからず問題を抱えているがこうして参加し旧友を暖めることができたことに感謝する。

翌日は新緑の温泉街や塩原ビジターセンター、もの語り館等を見学、昼食は西那須野町で美味しいソバを食し来年の開催を阿部君にお願いし東京で元気に再開することを約束してお開きとした。

高橋



18 クラス会 林学科新10回生 (昭37年卒)のクラス会報告

私達のクラス会は卒業後昭和の末期頃迄は2年に一度、時には5年の間を置いたりして、かなり不定期に実施していましたが、平成4年以降は申し合わせにより2年に一度定期的に行っています。

開催地は当番のご苦労と旅の魅力を高める意味も有って、地元栃木だけでなく、北海道グループ、青森、新潟、秋田、宮城、福島、東北グループ、東京、神奈川、埼玉の首都圏グループの原則4グループが持ち回りで実施しております。

2年前の第17回目のクラス会は卒業50周年と農学部創立90周年記念の年でしたので、久しぶりの母校訪問を織り込み宇都宮で実施し、合わせて記念誌「学びの友半世紀の年

輪を重ねて」を発行しました。

さて、本年の第18回クラス会は4度目の北海道で行うことになり、北海道組の松原、菅又、河原田、高橋の各氏が中心となって設営し、風光明媚な洞爺湖畔の万世閣で行われました。

参加人員は18名、在籍者数29名、鬼籍に入られた方が9名ですから出席率は約6割で先ず先ずかと思えます。欠席者の事情はいろいろですが、主として持病で体調が思わしくない人、奥さんの看病・介護で手が放せない人などが多かったことによります。さて祝宴は、お互いの元気を喜び合い、近況を語り合っているうちに時間は束の間うちに過ぎ、締め括りは次回の開催を首都圏グループの方々をお願いして終了しました。翌日は8時半から、船での洞爺湖遊覧に始まり、湖畔に散在する有珠山の火山遺構を見学、平成20年7月に3日間開催されたサミット記念館など盛り沢山の見学の後、13時50分に洞爺駅で別れを惜しんで解散しました。

資料・記事提供 松原、敦賀



林学科昭和37年卒（新10回生）第18回同窓会出席者
前列：左から、村関、山田、敦賀、大金、川口、横堀、同夫人
中列（中央部）：盛、大沼
後列：左から、松原、高橋、小林、栗原、大宮、類地、菅又
三浦（俊英）、小野寺、河原田（氏名は敬称略）

皆さまからのお便りをお待ちしています。

UUプラザ

赤ちゃんの駅

平成25年9月3日、UUプラザは宇都宮市「赤ちゃんの駅」に登録されました。

1階の多目的トイレ内にベビーシートが設置されていますので、おむつ替えにご利用ください。

利用可能時間帯は、平日午前9時～午後5時（年末年始・一斉休業日を除く）です。

ベビーシートをご利用する際、予約は不要です。お車で来られる際はUUプラザ前の駐車場をご利用ください。

関連リンク（参考）

<http://www.city.utsunomiya.tochigi.jp/fukushi/youjijidou/22902/022903.html>

UUプラザ

UUプラザでランチしませんか？

UUプラザにてお弁当、調理パンの販売をしています。皆様ぜひご利用ください。



（出 店）

- ・ふるさとジョアン（調理パン） 毎週月、火、木曜日
- ・ばそき家（やきそば） 毎週月、水、木曜日
- ・ふくふく亭（中華弁当） 毎週火、金曜日
- ・パン工房メープル 毎週水、金曜日

平成26年度理事会報告

平成26年6月21日13:00より、宇都宮市内ホテルマイステイズ11Fにおいて、大栗行昭庶務担当理事の司会のもとに、平成26年度峰ヶ丘同窓会理事会が開催された。以下に、項目別に議事内容を記載する。

1. 開 会

司会の、大栗行昭庶務担当理事より理事会の開催の案内があった。

2. 物故者への黙祷

理事会の開催に先立ち、物故者へ黙祷した。

3. 同窓会長挨拶

同窓会の現状として、47都道府県のすべてに卒業生がおり、そのうち41都道府県に支部があり、活動が行われていることが説明された。また、同窓会の事業として、一昨年に農学部創立90周年記念事業が行われたこと、昨年には、4年に一度発行される会員名簿が発行されたことが報告された。また、本年度は、大学祭期間中の11月22日に第3回ホームカミングデーが開催され、今後、会報等により同窓会員に案内があることが紹介された。大学の法人化後10年が経過し、大学も厳しい局面にあるようであり、同窓会としてもより一層の努力と充実を考え、母校の発展に寄与したいとの挨拶があった。

4. 議長選出

恒例に従い、満場一致で和賀井睦夫同窓会会長が議長に選出された。

5. 会務報告

金子幸雄理事長より、各支部総会、常任理事会、宇都宮大学各学部同窓会連絡協議会、ホームカミングデー実行委員会、90周年史編纂委員会などが開催されたことが報告された。また、卒業式、入学式、保護者説明会、会計監査などが行われたことも報告された。さらに、同窓会会報151号を昨年7月に発行し、本年は、10月に発行予定であることが説明された。教員支援（学部長表彰）2件および学生支援（学費支援・学部長表彰）7件があったことが報告された。質疑応答なし。拍手を持って承認された。

6. 平成25年度決算報告および監査報告

謝肖男会計担当理事より、一般会計、基本財産特別会計、名簿発行特別会計について決算報告がなされた。一般会計の歳入については、基本財産特別会計より繰り入れがあったことが説明された。また、一般会計の歳出においては、学生支援経費が予算額より増えているが、申請件数の増加が要因であること、90周年記念事業費については、編纂の遅れにより25年度に支出がなかったことが報告された。さらに、名簿発行特別会計については、一般会計よりの繰り入れと名簿発行に伴う支払いが行われたことが説明された。その後、花塚功先（経40）監事より、羽生愷（化24）および高橋東平（林38）監事とともに、理事会に先立って行われた監査にて、通帳や帳簿類を確認し、適正に運営されている旨、報告された。また、監事より、入会率の増加を高める努力が認められるが引き続きその努力をして欲しい旨、指摘があった。質疑応答なし。拍手により承認された。

7. 役員改選

平成26・27年度の役員改選について、3月に行われた選挙により、役員53名および監事3名が選出されていることが報告された。また、常任理事について、和賀井睦夫同窓会会長より25年度に引き続き、金子幸雄理事長（農47）、吉澤緑（畜50）、謝肖男（生化H16）、田村孝浩（開H5）、大栗行昭（経院58）、石栗太（森H9）に加えて、新たに房相佑（農院H5）に委嘱する案が示され、拍手を持って報告された。次いで、会長および副会長の選出について、金子幸雄理事長より、会則の説明とともに、出席している理事より、各学科より1名の理事を選出することが依頼され、金子幸雄理事長とともに各学科より選出された理事が別室にて会長および副会長の選出について協議した。別室



での協議終了後、理事会会場において、金子幸雄理事長より、平成25年度に引き続き会長に和賀井睦夫（農25）、副会長に竹永博（工40）が選出されたことが報告された。拍手を持って承認された。

8. 平成26年度予算案

謝肖男会計担当理事より、始めに、配布した資料の一部にミスがあり、資料の訂正が行われた。次いで、一般会計、基本財産特別会計、名簿発行特別会計予算案が説明された。一般会計の歳入については、基本財産特別会計からの繰り入れが必要であることが報告された。また、他の項目については、前年度とほぼ同様である事が報告された。質疑として、玉城昌幸理事（経35）より、新入生の入学者数が236人に対して、入会者数が180名であり、この入会率はどの程度のものであるのかについて質問があった。これに対して、謝肖男会計担当理事より本年度の入会率は比較的高いが、さらに入会率が増加するように努力していく必要がある旨、回答があった。その後、拍手を持って承認された。なお、承認後、司会の、大栗行昭理事より、同窓会の入会について、現在は、入学と同時に同窓会に入会していることになっており、入会率と会費納入率については別であり、謝肖男会計担当理事の回答にあった入会率は、会費納入率であることが補足説明された。

9. その他

ホームカミングデーについて、竹永博副会長より説明があった。平成22年度に第1回、平成24年度に第2回（農学部90周年記念事業と同時に開催）と、過去2回開催されているが、過去2回の参加者より“現役学生との交流”を求める声が多くあることから、本年度の第3回については、大学祭開催中の11月22日に開催されることが報告された。また、内容については、前回までとは異なり、農学部が主体で企画することとなり、これまでに農学部の実行委員会が3回開催され、同窓会からも委員として参加していることが報告された。内容については、完全に決定していないが、現在のところ、名誉教授、現役教員および現役学生を集めて座談会（農学部の学び今昔）、ウェルカムパーティー、大学祭への参加が企画されていることが説明された。詳細については、10月に発行予定の会報においてならびにホームページにて案内されることが報告された。質疑として、中根淑夫理事（獣20）より、ホームカミングデーにおけるウェルカムパーティーの開催は学科ごとであるのか、参加費はどのようになっているのかについて、質問があった。これに対して、竹永博副会長より、現在のところパーティーは学部全体で予定しているが、参加者数によっては変更がありうるが、10月に会報に同封したはぎにより出欠を確認するので、その人数によって確定されることが報告された。また、14時以降では、大学祭への参加などが自由となっており、場合によっては、学科もしくは研究室単位などで懇親会が開催される可能性があることが報告された。また、現在のところ、学部全体のウェルカムパーティーの会費は1000～2000円が予定されていることが説明された。

玉城昌幸理事（経35）より、大学の地域開放に関して、学内を散策していると、いくつかのベンチが破損しており、非常に危険であるので、機会があれば、大学施設課等へ報告して欲しいとの発言があった。これに対して、和賀井睦夫同窓会会長より、同窓会と大学との連絡会議が9月に開催予定なので、ここで大学側に報告したい旨、回答があった。

文責 会計担当理事 石栗 太

会 務 報 告

1. 支部総会等の開催

2013.	7.	7	茨城支部総会	津谷先生
2013.	8.	9	富山支部総会	田村理事
2013.	8.	29	栃木県庁支部総会	和賀井会長・金子理事長
2013.	8.	31	岩手支部総会	大久保先生
2013.	10.	5	宮城支部総会	石栗理事
2013.	11.	16	福島支部総会	大栗理事
2013.	11.	22	群馬支部総会	香川理事
2013.	11.	23	秋田支部総会	小笠原先生
2013.	12.	5	宇都支部総会	和賀井会長
2013.	12.	7	栃木県高校教職員連絡会	和賀井会長
2014.	5.	16	千葉支部総会	田村理事

2. 常任理事会等の開催

2013.	6.	19	第1回常任理事会及び引継会
2013.	6.	13	ホームカミングデー実行委員会
2013.	7.	12	第2回常任理事会
2013.	9.	6	第3回常任理事会
2013.	9.	25	宇都宮大学各学部同窓会連絡協議会
2013.	10.	25	第4回常任理事会
2013.	11.	27	第5回常任理事会
2013.	12.	25	第6回常任理事会
2014.	1.	17	第7回常任理事会
2014.	1.	17	農学部90年史編纂委員会
2014.	1.	27	学生評議員会
2014.	2.	26	第8回常任理事会
2014.	3.	3	宇都宮大学各学部同窓会連絡協議会
2014.	3.	14	ホームカミングデー実行委員会
2014.	3.	19	第9回常任理事会
2014.	4.	23	第10回常任理事会
2014.	5.	7	農学部ホームカミングデー実行委員会
2014.	5.	14	第11回常任理事会
2014.	6.	4	農学部ホームカミングデー実行委員会
2014.	6.	11	第12回常任理事会

3. その他の行事

2013.	7.	7	教育学部定期総会
2014.	3.	25	宇都宮大学卒業式：和賀井会長
2014.	4.	5	宇都宮大学入学式：和賀井会長
2014.	4.	5	農学部新入生保護者説明会開催：和賀井会長
2014.	4.	8	農学部新入生歓迎会開催
2014.	5.	14	平成25年度会計監査
2014.	6.	21	平成26年度理事会

4. 「峰ヶ丘同窓会報」の発行等

2013. 7. 1 第151号発行

5. 教員支援制度 (学部長表彰)	計 2 件
学生支援制度 (学費支援・学部長表彰)	計 7 件
	以上会務報告

会長委嘱理事（平成26年度）

理 事 長	金子 幸雄 (農47)		
常任理事	生物資源科学科	金子 幸雄 (農47)	
		吉澤 緑 (畜50)	
		○房 相佑 (農院H 5)	
	応用生命化学科	謝 肖男 (生化H16)	
	農業環境工学科	田村 孝浩 (開H 5)	
	農業経済学科	大栗 行昭 (経院58)	
	森林科学科	石栗 太 (森H 9)	
			(○印:新任)



下記の方々のご冥福をお祈り致します。

平成25年7月1日～平成26年8月現在までの物故者

農学科

農5：滝島 英策 農9：阿部 光雄
 農10：萩原 正信 農11：六角 見彰
 農16：亀和田光男 農16：塚本 博利
 農19：石川 清 農23：野々山伸彦
 農33：齋藤 稔 農33：高橋 久也
 農33：真鍋 正春 農33：安倍昭二郎
 農34：皆川 正義 農39：星 幸夫
 農40：富澤 哲 農42：大沢 守一
 農44：谷津 克彦 農46：諸井 均
 院植H18：塚原 清子

林学科

林7：古橋 義雄 林10：関田 末吉
 林12：金谷与十郎 林14：柏木 康吉
 林16：稲本 義夫 林16：赤坂 吉哉
 林22：江口 与一 林23：熊木 信男
 林23：山形 光男 林24：大山 雅義
 林25：平野平三郎 林29：今野 哲哉
 林31：上野 春朝 林33：奥貫 春夫
 林33：佐藤 誠二 林35 伊藤 浩
 林37：田口 昭雄 林37：三浦 洋一
 林40：宇賀神彌美 林41：菅野 国男
 林42：根津 傳一 林57：奥村 孝
 院林H20：小川知可子

農業経済学科

経4：佐山 八郎 経13：直井 豊
 経15：桜井 平八 経19：永島 勝彦
 経22：狩野 千年 経23：宮岡 英夫
 経25：楠原 正 経25：豊田 実
 経25：岡林 旋一 経25：武井 安雄
 経25：猪越 健男 経26：安生幸比古
 経28：小宮 忠晴 経28：明尾 宏一
 経28：疋田 栄悦 経30：望月 秀一
 経32：荒井 守 経33：宮野 嵩
 経35：露久保 透 経H1：青山 清高

畜産学科

獣18：清水 正利 獣18：田中 利男
 獣22：田畑 正彦 獣24：菊地 重夫
 獣24：増淵 晃章 畜25：鈴木 尚典
 畜29：矢口日出郎 畜30：栗田 明
 畜32：小松崎 新 畜35：吉江 利雄
 畜42：原島 昇昱 畜49 川畑 茂樹
 生動H21：堀 琢哉

農業工学科

土19：馬場 二郎 土24：垣内 邦俊
 土25：藤 信明 土25：釜井 昭正
 土25：新井 清一 土25：大金 清二
 土26：田村 義男 工28：伏木 正時
 工28：阿久津昭三 工29：吉田 公平
 工33：福田喜三男 工34：野尻 満
 工36：宮腰 猛夫 工36：笠原 慈
 工44：鏡 一男 開45：赤間 猛
 開46：笠井 純 開60：佐通 淳子
 環H22入学：齋藤 慶

農芸化学科

化23：崔見 晏伺 化23：中村 秀雄
 化23：推津 孝之 化24：人見 昭一
 化24：水野 博行 化24：宮本 三夫
 化28：石川 義雄 化28：小池 茂
 化30：今井 昭男 化30：高島 静樹
 化32：本間 正 化33：西海 広長
 化33：川俣 俊雄 化52：小川 克公
 化60：奈良 宗一

総合農学科

総33：植木 昭 総36：萩原 順三
 総44：溝口 輝正

名誉教授

経済学科：各務 春雄（経14）

元教員

林学科：前田 禎三
 農芸化学科：倉持 仁志（化56）
 工学科：伊庭 慶昭

○会員数及び会費納入状況

（大正15.3卒～平成25.6卒）

会 員 数

	旧 制	新 制	計	大学院	合 計
卒業生数	3,560	14,331	17,891	583	18,474
物故者数	2,532	838	3,370	4	3,374
現会員数	1,028	13,493	14,521	579	15,100

会費納入状況

	旧 制	新 制	計	大学院	合 計
現会員数	1,028	13,493	14,521	579	15,100
納入者数	877	11,010	11,887	227	12,114
納入率	85.31%	81.60%	81.86%	39.21%	80.23%

在学生会員及び会費納入状況

	学 部	大学院	計
在 学 生 数	908	70	978
会費平均納入率	68.5%		

（平成23.4入学～平成26.4入学）

お祝い

このたびは、おめでとうございます。

叙 勲

平成24年秋 旭日双光章

◦ 臼井 尚夫 (経24卒)

平成24年秋 瑞宝双光章

◦ 根岸 恒雄 (農19卒)

平成25年春 瑞宝小綬章

◦ 絵面征志郎 (農36卒)

平成25年春 瑞宝双光章

◦ 西入 恵二 (農24卒)

◦ 萩庭 勤五 (林20卒)

平成25年春 瑞宝小綬章

◦ 永井 英 (経39卒)

平成25年秋 旭日双光章

◦ 高村 正勝 (林35卒)

平成26年春 瑞宝小綬章

◦ 大桶 浩雄 (林42卒)

平成26年春 瑞宝双光章

◦ 高野 彦作 (土20卒)

昇 任

◦ 和田 義春 (生物資源科学科 教授)

◦ 松井 宏之 (農業環境工学科 教授)

◦ 橋本 啓 (応用生命化学科 教授)

◦ 飯塚 和也 (附属演習林 教授)

◦ 松田 勝

(バイオサイエンス教育研究センター 教授)

◦ 児玉 豊

(バイオサイエンス教育研究センター 准教授)

◦ 杉田 直樹 (農業経済学科 准教授)

お詫び

訂 正

151号 12頁 春日文雄先生を偲ぶ

10行目 農学社会学→農村社会学

13行目 戦後の教育を受け→戦前の教育を受け
大変失礼いたしました。訂正してお詫びいたします。

寄贈図書

◦ 「雑草」

農芸化学科新制1回 (昭和24年卒) 最終記念特集号 古谷野朝昭

◦ 「カラスなぜ遊ぶ」

畜産学科24回 (昭和51年卒) 農学部教授 杉田 昭栄

入学式および保護者説明会

平成26年度入学式が、4月5日(土)午前10時から宇都宮市文化会館で行われ、農学部には235名の方々が入学されました。午後2時から、大学農学部3101教室を会場にして、農学部主催の、新入生保護者説明会が行われ、232名の保護者が参加されました。同窓会からは、和賀井会長が出席して、同窓会の概要や、実施している事業の紹介を行いました。



峰ヶ丘講堂

峰ヶ丘講堂の入口付近に、説明看板が設置されました。毎年、多くの会議やイベントに利用されています。



詳細につきましては、大学ホームページ (<http://www.ut-sunomiya-u.ac.jp/koudou/index.php>) をご覧ください。

お問い合わせ・お申込みは、大学企画広報課029-649-5007までお願いします。

* 峰ヶ丘祭 * * * * *

2014年11月22日(土)・23日(日)に第66回峰ヶ丘祭が開催されます。

今回は大学のホームカミングデーとの同時開催となりますので、皆様どうぞ楽しみにしてください。

たくさんの方のご来場をお待ちしています。

次回会報発行日程
原稿締め切り日のお知らせ

同窓会では、皆様からの情報をお待ちしております。

会報次号の発行は、2015年10月初旬の予定です。原稿の締め切りは、8月31日となりますので、宜しくお願いいたします。

編 集 後 記

暑かった夏も峠を超え、こちら宇都宮では朝晩の虫の声に、秋の気配を感じるようになりました。

実りの秋を迎え、峰キャンパスの銀杏並木が黄金色に染まる頃、大学では第3回ホームカミングデーを開催いたします。農学部においても、訪れる皆さんのため、工夫を凝らしたイベントを企画しています。ご学友の皆さんそしてご家族をお誘いの上、是非お出かけください。

(田村)

こ な こ と

やっています (その8)

森林科学科

森林科学科は、1922（大正11）年の宇都宮高等農林学校建学以来、現場に根ざした実践的・体験的教育を根幹とする農学教育をその基本的スタンスとしてきました。伝統を受け継ぎ、「森林と人間との多様で持続的な関係の構築をめざす」ことを理念に、「人間社会の持続的発展のための森林資源の利活用を探究することを通して森林に関わる実践的専門家を育成する」ことを使命に、よりよい教育プログラムへ向けて今後も鋭意努力を重ねています。「宇都宮大学農学部・森林科学プログラム」として、2005年5月にJABEE（日本技術者教育認定機構）から正式に認定を受けました。学生達はプログラム修了と同時に「技術士」資格に関連する特典を得て巣立っていきます。



新入生オリエンテーション（船入演習林愛山寮前）

森林科学は、森林管理や生産に従事している森林所有者、林業労働者、木材加工業者、林業技術者、農家林家など生身の人間、土臭く、汗をかく人間、本当の担い手を意識した、実学としての森林に関する学問です。授業科目は、自然科学系から社会科学系までの幅広い分野から構成され、実習、実験、演習を重視したカリキュラムを構成しています。



樹木学実習での標本づくり



コア実習での植付実習

1、2年次には、森林科学の全体像を把握するため、基軸科目である森林科学論（Ⅰ、Ⅱ）、国際森林科学論、農学部コア講義、基礎実験（Ⅰ、Ⅱ）をはじめ、樹木学および同実習、森林測量学および同実習、森林基礎生物学、森林基礎化学、森林基礎力学、森林基礎経済学など、後の学習を進めるうえで不可欠な専門基礎科目を必修科目として学習します。学年進行にともない、各4教育分野の根幹をなす必修科目や、幅広い分野の講義、実験、実習、演習を選択科目として学習する。3～4年次には学んだ知識を活用して卒業論文ゼミ、卒業論文、森林科学総合実習、森林インターンシップなどの基軸科目（総合）に取り組み、森林技術者としての総合力を作り上げます。

毎年、修学期間を終えた森林科学科卒業生達が、意気高らかにそれぞれの新しい世界へと巣立っていきます。大学も学生気質も変わりましたが、学生時代に何泊も寝食を共にし、時には汗と泥だらけになりながら斜面を駆け上り、またあるときは実験室の中でミクロの世界に対峙し、林業に携わる多くの人と話し、多くの書物を読み、互いによく議論し、よく働き、よく遊び、掛け替えのない青春のひとときを過ごしつつ、大きく成長していく姿は、昔も今も変わりません。学生達にとってよい時間が過ごせるよう、社会へよりよい人材を送り出せるよう、教職員一同、一層精進しますので、OBGをはじめ、同窓会関係者の皆様方からのご支援・ご指導を何卒宜しくお願いします。

（文責：森林科学科 山本美穂）

- ◆ その1 附属農場
- ◆ その2 雑草科学研究センター
- ◆ その3 バイオサイエンス教育センター
- ◆ その4 里山科学センター

会報第145号
会報第146号
会報第147号
会報第148号

- ◆ その5 附属演習林
- ◆ その6 農業環境工学科
- ◆ その7 農業経済学科

会報第149号
会報第150号
会報第151号